

2016 年 3 月 20 日 (日) -26 日 (土)  
アンナプルナ & ダウラギリ展望トレッキング (3)  
トレッキングコース後半編  
文と写真 by 根岸

3 月 18 日 (金曜日) から 11 日間、ネパールアンナプルナ裏銀座ルート (アンナプルナ & ダウラギリ展望トレッキング) に参加した。このレポートは、「ネパール・ツアー概要編」と「トレッキングコース (前半)」に続いて「トレッキングコース (後半)」を紹介します。

トレッキングの後半は「裏銀座ルート」と名付けられた 3000m を越えたルートで、西遊旅行 (日本人客にとって) で初めて実施されたコースである。最もポピュラーな表銀座ルートは、タダパニ (2640m) からゴラパニ (2750m) まで行き眺望の有名な地点 (プーンヒル) まで行く周遊ハイキングと名付けられている。

3 月 22 日 (火) : トレッキング 3 日目



トレッキング 3 日目は、シャクナゲの樹林帯を行き、バイシカルカ (3450m) まで登る 6 時間の予定である。実際の宿は、Baile (3432m) に位置していた。

4 日目は、今回の目的地コブラダンダ (3660m) まで尾根道を約 6 時間辿る。

ここから裏銀座ルートである。



タダパニ (2640m) から、徐々に高度が上がり、アンナプルナサウスが見え隠れした。

本日の朝から、高山病対策で「パルスオキシメータ」による脈拍と動脈中の酸素飽和度 (SpO2) を測定開始した。東京では SpO2 が 92 だったが、今朝は 80 まで下がった。70 を切ると危険だそう。

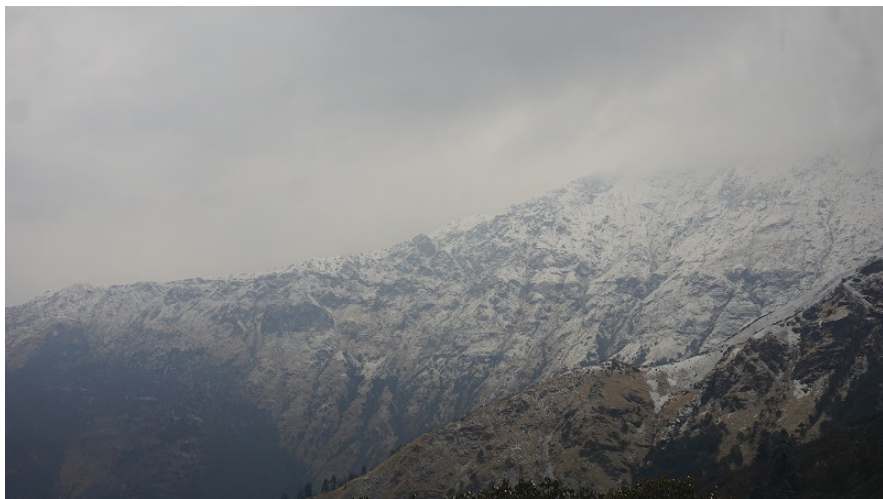




高度が 3000m を越えると、樹木が小さくなり、シャクナゲの花が色濃く見えだす。



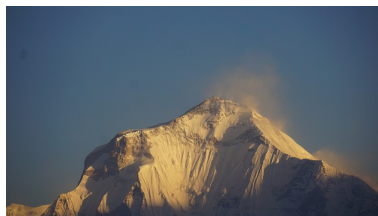
更に 3000m を越えると、ところどころで残雪が見えだした。



バイシカルカ (実際は Bayeli) 3450m に 15 時過ぎに着いたころには、雪が降ってきた。雲が立ち込め、景色を写真にとることは出来なかった。動脈中の酸素飽和度 (SpO2) を夜測ったが 79 だった。脈拍は何時もより早い。女性陣はダイヤモンドックス (高山病予防薬) の処方を受けてきた方が居た。

3 月 23 日 (火) : トレッキング 4 日目





翌朝は、晴天に恵まれた。今まで見えなかったダウラギリ I 峰（8167m）から 5 峰がくっきり見えた。



ダウラギリをバックに、ツアー参加の日本人 8 名とコック、ガイド達で記念写真。2 cm 位雪が積もった。



更に、良い展望を求めて 200m 登り、最終目的地コプラダндаを目指した。この日の歩きは、5 時間ほどだったが、さすがに 3000m でのアップダウンの激しい地形に苦勞した。特に、雪が残る下りの岩場には神経を使った。この時は写真を撮っている余裕がなかった。



14 時過ぎ、目的地のコプラダнда (3660m) に到着した。



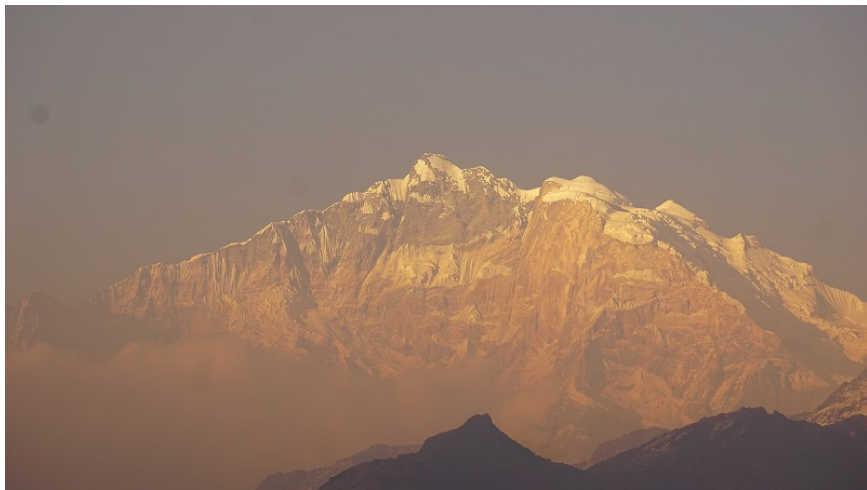
ダウラギリ I 峰 (8167m) がより近く見えた。



アンナプルナサウス(7219 m)の晴れ姿である。







こちらが、アンナプルナ I 峰(8091m)の後ろ姿である。エルゾーグらが登頂した時の BC は裏側にある。

3 月 24 日 (木) : トレッキング 5 日目

コプラダングダ(3660m)宿泊



翌朝は、快晴だった。朝の測定では、動脈中の酸素飽和度 (SpO2) は 79 だった。階段で右太ももの肉離れを起こしたので、大事を取ってロッジで過ごすことにした。バンテリンと湿布を併用した。

のんびりして居ると、ヤクが上がってきた。



ダウラギリ山系を望んで、ロッジで記念撮影。



こちらは、アンナプルナ I 峰を真ん中にして、ポーターと記念撮影。



真ん中は、アンナプルナ・ファン（7647m）と思われる。



トレッカーとアンナプルナ I 峰、サウスの遠景。霧が出始め、午後には雲ってしまった。  
夜の測定では、動脈中の酸素飽和度（SpO2）は 72 で最低を記録した。  
お酒（ウイスキー）は自重した。  
携帯電話が故障して操作が出来なかった。もともと電波が弱かったが、残念であった。

3 月 25 日（金）：トレッキング 6 日目





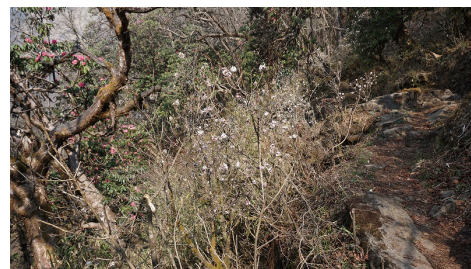
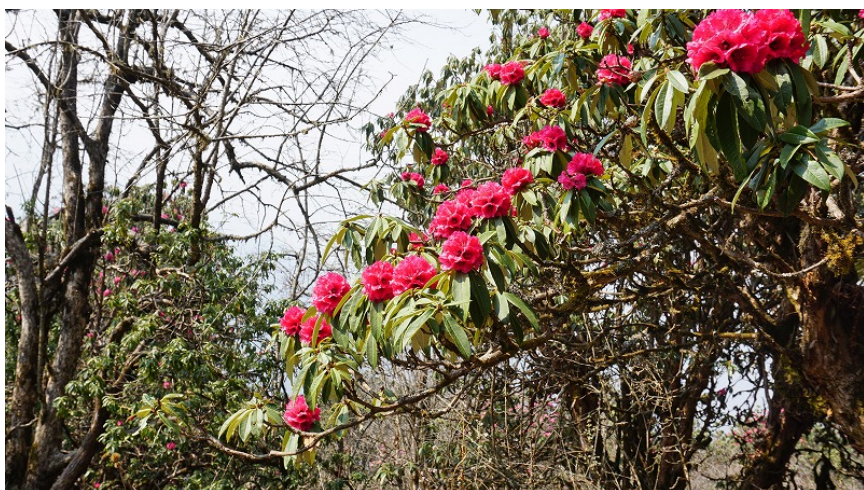
6日目朝、日本人ツアーメンバー7名と、現地ガイド、コックたちと記念撮影。背景はダウラギリである。

この日は、シーカ（1935m）まで約7時間で一気に1700m以上下る。朝の測定で、動脈中の酸素飽和度（SpO2）は79だった。



前の晩は、ノルウェイ、オーストラリアのツアー客でロッジが一杯だった。トイレタイムが十分とれない。予定通り、8時に出発した。

少し降ったところで、ヤクがお見送りしてくれた。



シャクナゲとジンチョウゲに似た白い花が有った。少し匂いも有った。





丁度、12 時に昼食場所のアルカルカに着く。やっと落ち着いてトイレタイムが取れた。

その後、2 時間でスワンタ、更に 2 時間で宿泊地シーカに 17 時ごろ到着した。



シーカの宿（1935m）で、夕食後にビールや現地焼酎ロキシーでお別れ会を開催した。現地スタッフが中心で踊りを踊ってトレッキング無事終了を祝った。

3 月 26 日（土）トレッキング 7 日目（最終日）



最終日は、シーカ（1935m）から、バスの待つタトパニ（1190m）まで約 3 時間下った。タト（熱い）パニ（水）の意味である。





タトパニは温泉が湧いていた。現地の人は、水着姿で入っていたが、われわれは足湯を楽しんだ。  
100rp=1\$の入浴料。



帰りのバスは、トラブルの連続であった。ラジエターが沸騰し坂道を登り切れずバス車両交換1回、パンク1回で、12時半ごろ出発して何とかポカラに17時半ごろ到着した。

(2016年4月9日作成)